

授業科目名	【G】	スポーツ法	区分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2	
			その他参照					
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	スポーツ規範のデザインと解釈				担当者	松宮 智生		
授業概要	【概要】	スポーツ社会における諸ルールは、ある種の「村社会の掟」ではあるが、国家の法とも密接に関係している。スポーツに携わる人たちは、競技者としてのみならず、指導者、競技役員、審判、また労働者など、さまざまな立場で多様な権利・義務関係、すなわち法的関係の中で行動している。したがって、本科目の内容は多岐にわたるが、スポーツ・ルールと法との関係(法哲学・法社会学)、スポーツ事故(民事法・刑事法)、そしてスポーツにおける人権問題(憲法)などを主要課題とし、具体的な事例を素材にして授業を展開する。特にスポーツにおける性の多様性については、新たなルールが形成される途上にあるので、重点的に取り上げたい。						
	【到達目標】	授業における事例の考察(ケースメソッド)により、スポーツのルール・規範と法との関係を体系的に理解し、スポーツの現場における当事者として、具体的な法的課題について妥当性の高い解決・改善案を提示することができる。						
履修条件	特になし。							
アクティブラーニングの方法	【-】	事前学習型	【-】	反転授業	【-】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【-】	双方向アンケート	【-】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【-】	ロールプレイ
	【-】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【○】	PBL	【○】	レポート内容の講評
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)						
他科目との関連性	次の科目のテーマと関連がある。法学の科目で得た知識をスポーツに応用してほしい。法哲学「法実証主義」「法原理と解釈」、法社会学「部分社会論」、憲法(人権)「女性・性的マイノリティの人権」、刑法総論「違法性阻却、正当行為」、民法(不法行為)「故意・過失、注意義務」、民事訴訟法「仲裁」など。							
教科書	授業中に、適宜、資料を配布・配信する。							
参考書	日本スポーツ法学会監修、浦川道太郎ほか編著『標準テキストスポーツ法学 第3版』エイデル研究所、2020年							
評価方法	講義内容の理解度を見るため小テストを実施し、また小レポートの提出を求める。それらの合計点数をもとに評価する。評価の配分割合:学習到達度確認テスト50%、レポート50%。その他、授業への貢献など+α。単位認定には、全講義数の3分の2(10回)以上の出席(課題の提出)を必要とする。							
フィードバック方法	教員が採点した小テストを返却する。 一部のレポートの内容を授業で紹介し、授業内で教員が講評する。							
評価基準	授業内容をよく理解し適切に表現できた者はその程度応じ「S」または「A」、単元の内容についての理解や表現に何らかの不適切な点がある者はその程度に応じて「B」またCとし、単元の内容についての理解が不十分な者はその程度に応じて「D」またEとする。なお、評価不能の場合には「F」とする。							

授業科目名	【G】 スポーツ法	区分		【G】3	単位数	【G】2
		開講年次	その他参照			
授業回数	授業内容					
1	オリエンテーション(授業のねらい、授業内容、評価方法、留意事項などの説明)、わが国法体系におけるスポーツ法の位置づけ、スポーツ法の独自性 予習: シラバスを読む。「現代社会とスポーツ」の復習。(90分) 復習: 配布資料に基づいてスポーツに関連する法令を確認する。(90分)					
2	法とスポーツ・ルールとの関係(1):PGA対マーティン事件:障害をもつプロゴルファーはカートに乗ってプレーできるのか? 予習: ゴルフのルールとマーティン事件の概要を調べる。(90分) 復習: 課題レポートの作成。(90分)					
3	法とスポーツ・ルールとの関係(2):受講者による結論(判決)をもとにした議論 予習: 前回授業における自分の見解をまとめる。(90分) 復習: 授業で紹介した見解と自分の見解との比較・検討。(90分)					
4	スポーツにおける暗黙のルール(unwritten rules)をめぐる裁判(報復的デッドボールをめぐる) 予習: 不法行為法「故意・過失」「管理者責任」の復習。(90分) 復習: 課題レポートの作成。(90分)					
5	スポーツにおける成文のルールと暗黙のルールの法的性質について 予習: 前回授業における自分の見解をまとめる。(90分) 復習: 授業で紹介した見解と自分の見解との比較・検討。(90分)					
6	スポーツ事故における司法の関与・介入(1)(平成29年12月5日東京高裁における和解を事例に) 予習: 課題の事例についてその概要を調べる。(90分) 復習: 課題レポートの作成。(90分)					
7	スポーツ事故における司法の関与・介入(2)(前半のまとめ) 予習: 第4回の事例と第6回の事例とを比較検討する。(90分) 復習: 授業で紹介した見解と自分の見解との比較・検討。(90分)					
8	NFL集団訴訟:プロアメリカンフットボールにおける脳しんとう問題と裁判 予習: NFL集団訴訟の概要を調べる。(90分) 復習: スポーツにおける「危険」の概念についてまとめる。(90分)					
9	柔道事故:なぜ柔道事故が起り続けたのか 予習: 柔道事故の概要について調べる。(90分) 復習: 課題レポートの作成。(90分)					
10	性の多様性とスポーツ(1):トランスジェンダーのアスリートをめぐる 予習: トランスジェンダー及び性別変更に関する法令を調べる。(90分) 復習: 課題レポートの作成。(90分)					
11	性の多様性とスポーツ(2):東京2020におけるトランス女性をめぐる問題 予習: 東京2020に出場したトランスジェンダーの選手を調べる。(90分) 復習: 課題レポートの作成。(90分)					
12	性の多様性とスポーツ(3):DSD規定をめぐる 予習: セメンヤ事件(スポーツ仲裁事例)について調べる。(90分) 復習: 課題レポートの作成。(90分)					
13	性の多様性とスポーツ(4):東京2020におけるDSD女性をめぐる問題 予習: 東京2020に出場したDSD選手を調べる。(90分) 復習: 課題レポートの作成。(90分)					
14	身体的インテグリティ 予習: 「身体的インテグリティ」の意味を調べる。(90分) 復習: 課題レポートの作成。(90分)					
15	全体のまとめ及び最新情報のフォローアップ 予習: これまでの授業に関連する最新情報を調べる。(90分) 復習: 課題レポートの作成。(90分)					
その他	特になし。 ※Gカリ:法【選択】 スポ【必修】 情【選択】					